はくたの学校図書館便り

２０２０年　１０月

１０月２７日～１１月９日は、読書週間です。
読書の秋を思いきり楽しみましょう！
今回は、「秋」で連想される本をご紹介します。

芸術の秋

『くちびるに歌を』

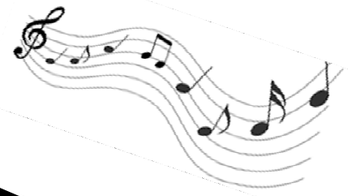
中田永一／作（小学館）

合唱コンクールに出場するまでの１年間の物語。先生、生徒それぞれが悩みを抱えながらも合唱を通して成長する姿が描かれています。思いを込めて歌うシーンは感動です。
（赤屋小・千代田）

『セロ弾きのゴーシュ
宮沢賢治絵童話集⑥』

宮沢賢治／作（くもん出版）

金星音楽団でセロ担当のゴーシュは、楽長に怒られてばかり。真夜中、ゴーシュが一生懸命セロの練習をしていると、うしろの扉をたたく音がして…。
（伯太中・小林）



神有月

『子どもに語る日本の神話』

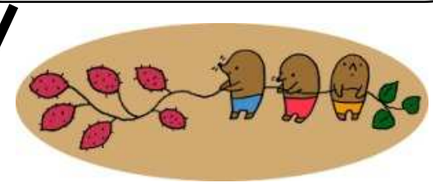
三浦佑之／訳（こぐま社）

秋と言えば神有月。八百万といわれるほどたくさんいる神様たちは、強くて、優しくて、かしこい人、ばかりではありません。いじわるをする人もいれば、失敗する人もいるので、ツッコミどころ満載です。
同じ「日本の神話」でも、本によって書かれ方が違うので読み比べるのもおもしろいですよ。（安田小・板持）

『ほしじいたけ　ほしばあたけ』

石川基子・作（講談社）

ほしじいたけたちのすきなことは、ひなたぼっこ。きらいなのは、水にぬれること。ある日ほしじいたけは、谷に落ちたタマゴタケくんを助けるため、「しかたあるまい」とつぶやき…。
（母里小・青山）



秋といえば…

自然

『おひさまいろのきもの』

広野多珂子作・絵（福音館書店）

秋・・・彼岸花・・・でこの本の表紙を思い出しました。
小さい時、病気をして目が見えなくなった「ふう」のお話です。
（井尻小・久保井）

スポーツ

『たのしい　うんどう』

平尾　剛／監修（朝日新聞出版）

「運動は、からだを動かす遊び」という考えで書かれた本です。だから読んでいると、変わった歩き方や、へんてこなジャンプや、何かになりきったおどりをしたくなります。
さあ、本を読んで、いっしょにからだを動かしましょう！　（安田小・板持）

食欲の秋

『みしのたくかにと』

松岡享子/作・大社玲子/絵（こぐま社）

おばあさんが種をまきました。何ができるかな？
楽しみに育ててできたのは「かぼちゃ」。でも、それを見た王子さまは・・・・？
（井尻小・久保井）

『おかえり　あかとんぼ
自然きらきら⑦』

久保秀一／写真、七尾　純（偕成社）

アカトンボは、夏の間は山で過ごしています。そして、秋になると体が赤くなり、里におりてきます。アカトンボのひみつをこの本で見つけてね。
（安田小・板持）

『月の上のガラスの町』

古田足日／作（日本標準）

人類が、月でくらすようになった時代のお話です。
太陽は西からのぼり、植物は巨大化し、地球と月を行き来でき、アンドロイドが恋をする…6つの短編が収録されています。
（赤屋小・千代田）

『朔と新』

いとうみく／作（講談社）

事故のため視力を失った兄・朔と、そのことに責任を感じ、なげやりになった弟・新。朔が新にブラインドマラソンの伴走を頼んだことから、家族の気持ちが動き始めます。
（母里小・青山）

『てのひらの味　食べ物の俳句』

村井康司/編　とくだみちよ/絵
（岩崎書店）

きのこごはん、目玉焼き、牛鍋…など食べ物の俳句を14句紹介。
左側の折り込みページを開くと、それぞれの句の解説が読めます。
（伯太中・小林）